

作家・帚木蓬生さんが就任！

市に、ふるさと文化大使が誕生しました。



企画展示のようす（現在終了）

最新作「襲来」
（講談社）



市は、阪神タイガースの中谷将大選手の「ふるさとスポーツ大使」に続き、文化・芸術の分野で活躍する小郡市にゆかりのある人に、市のPRや文化振興に協力いただく「ふるさと文化大使」制度を設けました。第1号に同市出身の作家・帚木蓬生さんを任命し、5月に就任式を行いました。

一瞬で引き受けたものの
改めて背筋が伸びる思い。

5月12日、文化会館で帚木蓬生さんのふるさと文化大使就任式を行いました。

久留米藩三部作「水神」「天に星 地に花」「守教」といった歴史小説から、サスペンスや医療小説など、数々の作品を世に送り出してきた帚木さん。作家として「山本周五郎賞」「小学館児童出版文化賞」「吉川英治文学賞」など、多数の賞に輝き、全国各地で講演活動を行われる一方で、現役の精神科医としてもご活躍中で、精神医療やギャンブル依存問題についての著作も発表されています。帚木さんには、多岐にわたる精力的な活動の中で、出身地「小郡市」の魅力を国内外に広く発信してもらい、また市の文化、芸術などの振興のために必要な指導・助言・提案をしていただきます。

式典では、市長が「帚木先生はその時代を懸命に生きるお一人お一人に光を当て、その思い



帚木 蓬生

はまきぎ ほうせい

作家、精神科医。1947年、小郡市生まれ。東大仏文科卒業後、TBSに勤務。退職後、九州大学医学部に学び、精神科医に。吉川英治文学賞など受賞多数。

を受け止められている。先生の持つこの視座を、社会に生きる一人一人の思いを受け止めることができる小郡市を作るため、まちづくりにかかしていただけたらと思います」と今後の活躍に期待を寄せると、少し照れながら、「これから先は悪いことはできないなああと、背筋を伸ばしてまっとうな人生を過ごしたいとつくづく思います」と話し、会場は笑いに包まれました。

【文化大使の任命を受けて】

帚木「市長から言われた瞬間にお引き受けしましたが、大使になるのは初めてです。小郡には今も兄と弟が住んでいて、たまに来るんですが、宝満川のある昔のままの風景って、やはりいいですよ。ね。子どもの頃、よく魚釣りに行っていたものです。それに、野田宇太郎という先人がいる場所。今も伝統が続く「文学散歩」を開発した本当にすごい人ですから、小郡の若い人にも知ってほしいと思います」。